

特定非営利活動法人日本火山学会 2014 年秋季大会プログラム

期日：2014年11月2日（日曜日）～11月4日（火曜日）（学術講演会）

場所：福岡大学七隈キャンパス

連絡先・責任者：2014 年度秋季大会実行委員会 奥野充委員長 E-mail：okuno @ fukuoka-u.ac.jp

【講演会場】

福岡大学七隈キャンパス 18 号館 2 階講義室および中央図書館多目的ホール

〒814-0180 福岡県福岡市城南区七隈 8-19-1 (TEL: 092-871-6631)

<http://www.fukuoka-u.ac.jp/help/map/>

※交通

天神南駅から福大前駅まで地下鉄七隈線で約16分。地下鉄空港線天神駅と天神南駅は天神地下街を経由して徒歩8分で乗り換え可。地下鉄福大前駅から会場まで徒歩6分。

会場には駐車できませんので公共交通機関をご利用ください。

※会場

A 会場：中央図書館多目的ホール B 会場：18 号館 1824 教室

C 会場：18 号館 1823 教室

ポスター会場：18号館 2階エントランス, 1826教室, 1827教室

(ジオパークセッションのポスターは A 会場入り口)

休憩室：18 号館 1821 教室

「フォレスト」(中央図書館1階)

2日と3日に10時～16時まで営業（12時～1時半以外は休憩室として利用可）

大会実行委員控え室：18号館 1822 教室

会場内の一部で無線LANを提供しています。ネットワーク名、ID、パスワードは会場受付にてお尋ね下さい。



【懇親会】

日 時：11月3日（月）18時30分～20時30分

会 場：福岡大学 文系センター16階 スカイラウンジ

懇親会費：一般会員6,000円、学生会員4,000円

【口頭発表スケジュール】

		A会場(多目的ホール)	B会場(1824)	C会場(1823)
11月2日 (日)	午前 (9:30-12:15)	ジオパーク	火山地下構造と 地殻変動	噴火のダイナミクス
	昼休み (12:40-13:50)	緊急学術セッション		
	午後 (14:00-18:15)	防災と噴火史・年代	ラハール・水蒸気 爆発・熱水系	
	午後 (18:30-19:15)	ポスターセッションコアタイム(P1-01～P1-34, 緊急学術セッションポスター)		
11月3日 (月)	午前 (9:00-11:50)	60周年記念 シンポジウム		
	午後 (13:00-13:45)	ポスターセッションコアタイム (P2-01～P2-42)		
	午後 (14:00-16:00)	火山地質	浅部マグマ上昇 過程	
	午後 (16:10-18:10)	臨時総会・受賞記念 講演会		
11月4日 (火)	午前 (9:00-12:45)	地殻変動と 火山の地震	マグマ・岩石学	
	午後 (13:00-13:15)	学生優秀発表賞 表彰式		

※一人あたりの講演時間は15分ですが、3分は質疑応答時間として残すようにしてください。

※講演会場には液晶プロジェクタ1台、スクリーン1面があります。OHPやプロジェクタは用意できませんのでご注意ください。

※緊急学術セッションの講演予稿は、印刷が間に合わなかったため、別冊で提供します。

【ポスター発表スケジュール】

・ポスター掲示期間：前半セッション 11月2日（日）10:00～19:15

後半セッション 11月3日（月）08:30～17:00

福岡大学18号館2階（ジオパークセッションのポスターはA会場入り口）

・コアタイム：11月2日（日）18:30～19:15（P1-01～P1-34, 緊急学術セッションポスター）

11月3日（月）13:00～13:45（P2-01～P2-42）

・パネルの大きさは、幅約93cm×高さ約179cm（縦長）です。

・電源の必要なパソコンやビデオの使用はできません。

【その他の行事・会合】

- ・ 11 月 1 日 (土) 10:00-12:00 火山防災シンポジウム A 会場
「九州の火山活動と災害」
- ・ 11 月 1 日 (土) 13:00-16:30 日本火山学会第 21 回公開講座
「九州の火山と地熱エネルギーを知ろう」
第一部 (講演会) : A 会場
第二部 (工作 WS) : 18 号館 1 階地球科学学生実験室
- ・ 11 月 1 日 (土) 13:30- 火山学会理事会 福岡大学 18 号館
- ・ 11 月 1 日 (土) 16:00-18:00 緊急防災シンポジウム A 会場
- ・ 11 月 2 日 (日) 昼休み 日本火山学会 ジオパーク支援委員会 福岡大学 18 号館
- ・ 11 月 2 日 (日) 夕方 日本火山学会 原子力問題対応委員会 福岡大学 18 号館
- ・ 11 月 3 日 (月) 昼休み 火山学会 将来計画委員会 福岡大学 18 号館
- ・ 11 月 3 日 (月) 昼休み 日本火山学会 編集委員会 福岡大学 18 号館
- ・ 11 月 3 日 (月) 昼休み IAVCEI 小委員会 福岡大学 18 号館
- ・ 11 月 3 日 (月) 18:30-20:30 懇親会 福岡大学 文系センター 16 階 スカイラウンジ

【現地討論会】: 1. 韓国・チェジュ島 (2 泊 3 日)

日程: 10 月 29 日 (水) ~ 10 月 31 日 (金)

(2. 島原半島ジオパーク)
日程: 10 月 30 日 (木) ~ 10 月 31 日 (金)
※催行人数に達しないため開催中止になりました.

(3. 九重および由布・鶴見岳)
日程: 11 月 4 日 (火) ~ 11 月 6 日 (木)
※催行人数に達しないため開催中止になりました.

4. 五島福江火山 (1 日)

日程: 11 月 5 日 (水)

11月2日(日) 午前

A 会場

ジオパーク

座長：大野希一・廣瀬 亘

9:30-9:45

G1-01 北海道中央高地ジオパーク構想 ※廣瀬 亘

9:45-10:00

G1-02 火山を主体とした北海道中央部と東部のジオパーク

構想：大雪山・十勝岳と阿寒・屈斜路

※和田恵治

10:00-10:15

G1-03 鳥海山・飛島ジオパーク構想のジオストーリー

※林 信太郎

10:15-10:30

G1-04 富士山での「ジオツアー」実践とその課題

※鈴木雄介

10:30-10:45

G1-05 龍が通った道-研究成果を教育・観光・地域振興に活用する

※永尾隆志・堀川義之・伊藤靖子・樋口尚樹

10:45-11:00 休憩

11:00-11:15

G1-06 2011年霧島山新燃岳噴火に対する危機管理とジオパーク ※井村隆介

11:15-11:30

G1-07 阿蘇における火山災害とジオパークの役割

※池辺伸一郎・渡辺一徳・石松昭信

片山 彰・山内万里子・永田絃樹

11:30-11:45

G1-08 災害遺産を活用して巨大自然災害からの復興を目指す
- 科学・防災教育を目的としたジオアールに向けて -

※谷口宏充・南三陸海岸ジオパーク準備委員会

11:45-12:00

G1-09 ジオパークの解説板に何を書くかー島原半島ジオパークでの情報発信の実例ー ※大野希一

12:00-12:15

G1-10 ジオパーク顧客獲得戦略の基礎研究-三陸ジオパークを例として-

※伊藤英之・鈴木正貴・佐藤凌太

杉本伸一・関 博充

B 会場

火山地下構造と地殻変動

座長：橋本武志・川口亮平・小澤 拓

9:30-9:45

B1-01 有珠山2000年噴火初期に観測された地磁気変化の再検討 ※橋本武志・三嶋 渉

9:45-10:00

B1-02 AMT法による十勝岳火口域の比抵抗構造探査

※山谷祐介・高橋 良・岡崎紀俊・田村 慎

岡 大輔・秋田藤夫・茂木 透・橋本武志・道下剛史

田中 良・菅野伴太朗・奥田真央

10:00-10:15

B1-03 2000年三宅神津島イベント以降の神津島における地殻変動 ※木股文昭・村瀬雅之・森 濟

10:15-10:30

B1-04 レシーバ関数解析による富士山下の地下構造

※◎木下佐和子・五十嵐俊博・青木陽介・武尾 実

10:30-10:45

B1-05 2011年東北地方太平洋沖地震後の火山フロント沿いの余効ひずみ異常域 ※三浦 哲・太田雄策

飯沼卓史・出町知嗣・立花憲司

佐藤俊也・大園真子

10:45-11:00 休憩

11:00-11:15

B1-06 イタリア・ストロンボリ火山の噴火に先行する傾斜変動の特徴 ※川口亮平・西村太志

青山 裕・山田大志・藤田英輔・三輪学央

Genco Riccardo・Lacanna Giorgio・Ripepe Maurizio

11:15-11:30

B1-07 熱赤外画像に写真測量を応用した3次元地形モデル構築手法 ※村上 亮

11:30-11:45

B1-08 霧島山の地殻変動から推定されるマグマ再蓄積

※中尾 茂・森田・裕一・後藤和彦・八木原寛

平野舟一郎・及川 純・上田英樹・高橋浩晃

太田雄策・松島 健・井口正人

11:45-12:00

B1-09 X-band SAR/InSAR データを利用した桜島のモニタリング ※宮城洋介・小澤 拓・島田政信

12:00-12:15

B1-10 SAR干渉解析による口永良部島の地殻変動

※小澤 拓

C 会場

噴火のダイナミクス

座長：大石雅之・三輪学央

9:30-9:45

- C1-01 桜島火山のブルカノ式噴火による降下火山灰の粒度特性
※古川竜太・山元孝広・石塚吉浩
七山 太・下司信夫・及川輝樹・大石雅之

9:45-10:00

- C1-02 桜島火山昭和火口噴火の細粒火山灰構成粒子の時系列
※大石雅之・下司信夫

10:00-10:15

- C1-03 父島で捉えた西之島の活動に伴う空振
※市原美恵・西田 究・岩國真紀子
ラカンナジョルジオ・リペペ・マウリチオ

10:15-10:30

- C1-04 浅間火山山頂部からの二酸化炭素拡散放出
※◎森田雅明・森 俊哉・風早竜之介・辻 浩

10:30-10:45

- C1-05 赤外方向性半球反射率計測装置の開発
※實測哲也

10:45-11:00 休憩

11:00-11:15

- C1-06 パーシベルを用いた火山灰の粒度分布測定に関する実験的研究
※三輪学央・真木雅之
小園誠史・藤田英輔・棚田俊收

11:15-11:30

- C1-07 衛星赤外画像による「連発ブリニー式噴火を主とする活動推移」の解析とその特徴付け —サリチェフ
2009 年噴火を例に— ※金子隆之・安田 敦
ウスター マーティン

11:30-11:45

- C1-08 気象衛星でとらえた傘型噴煙— 2014 年 2 月 13 日のケルフト火山噴火— ※石井憲介・桜井利幸
鈴木雄治郎・新堀敏基・福井敬一・佐藤英一

11:45-12:00

- C1-09 気象レーダによる桜島火山噴煙の観測
※真木雅之・井口正人・藤田英輔・前坂 剛
出世ゆかり・小園誠史・桃谷辰也・山路昭彦

12:00-12:15

- C1-10 降下火砕堆積物 GSD 層序変化を用いた新燃岳 2011 年準ブリニー式噴火の降下時 GSD 時間変化の推定
※◎入山 宙・寅丸敦志

12:40-13:50 緊急学術セッション

11 月 2 日 (日) 午後

A 会場

防災と噴火史・年代

座長：宝田晋治・上澤真平・石塚 治

14:00-14:15

- A1-21 白頭山の火山防災対策について ※金 恵園
朴 哉垣

14:15-14:30

- A1-22 火山災害による被害影響シナリオについて
※朴 哉垣・金 恵園

14:30-14:45

- A1-23 火山ハザードマップの必要性を実感する学習の展開
※横山 光・金丸大輔

14:45-15:00

- A1-24 阿蘇カルデラ火山における大規模火砕噴火の条件
※長谷中利昭

15:00-15:15

- A1-25 G-EVER 火山災害予測支援システムとアジア太平洋地域地震火山ハザード情報システムの構築
※宝田晋治・Bandibas Joel・G-EVER 推進チーム

B 会場

ラハール・水蒸気爆発・熱水系

座長：長谷川 健・横瀬久芳・寺田暁彦

14:00-14:15

- B1-21 鳥海火山北麓に分布するラハール堆積物の地形的、堆積学的特徴 ※◎南 裕介・大場 司
林信太郎・片岡香子

14:15-14:30

- B1-22 カメルーン北西部、ニオス火山の噴火史 (序報)
※長谷川健・宮縁育夫・小林哲夫・Festus T. Aka
Kankeu Boniface・金子克哉・大場 武・日下部実
Gregory Tanyileke・Joseph Hell

14:30-14:45

- B1-23 十勝岳大正泥流を引き起こした岩屑なだれ堆積物の熱水変質作用 ※高橋 良・八幡正弘

14:45-15:00

- B1-24 マグマ水蒸気噴火を生じない珪長質火砕噴火は外来水がなかったことを意味するか ※◎広井良美
宮本 毅

15:15-15:30
A1-26 原発の新規制基準の「火山評価ガイド」と適合性審査の問題点 ※小山真人

15:30-15:45
A1-27 火山噴火の規則性とその意味 ※中田節也

15:45-16:00
A1-28 南西北海道, 羊蹄火山の爆発的噴火活動史 ※上澤真平・中川光弘・梅津 茜

16:00-16:15 休憩

16:15-16:30
A1-29 テフラ層序からみた洞爺火山の後カルデラ活動 ※宮縁育夫・奥野 充・鳥井真之・吉本充宏・小林哲夫

16:30-16:45
A1-30 テフラ層からみた大規模爆発的火山噴火の頻度と噴出場の評価に向けて ※長橋良隆・里口保文・片岡香子

16:45-17:00
A1-31 アリュエシアン列島, Islands of Four Mountains の完新世テフラ層序 (予報) ※奥野 充
IFM 2014 プロジェクトメンバー

17:00-17:15
A1-32 Evolution of explosive volcanism of Nemrut and Süphan volcanoes, eastern Anatolia: High-resolution record of climatic, volcanic and geodynamic evolution over ca. 570000 years in the 220 m sediment core ※隅田まり
シュミンケハンス・ウルリッヒ
Paleovan scientific team

17:15-17:30
A1-33 赤城火山の噴火履歴の再検討と定量化 ※山元孝広

17:30-17:45
A1-34 四国西北部, 久万・石鎚層群の珪長質火成岩類のジルコン U-Pb 年代 ※新正裕尚・折橋裕二

17:45-18:00
A1-35 琉球弧硫黄島西方で確認された活動的海底火山群 ※石塚 治・下田 玄・針金由美子・井上卓彦
荒井晃作・佐藤太一・佐藤智之・片山 肇
南 宏樹・小原泰彦

18:00-18:15
A1-36 7300 BP アカホヤ噴火を引き起こした, 鹿児島県南方沖・鬼界カルデラの海域の地質構造 ※池上郁彦
清川昌一・大岩根尚・前野 深
中村恭之・亀尾 桂

15:00-15:15
B1-25 隠岐島前火山, 焼火山火砕丘の噴火機構 ※鹿野和彦・金子信行・千葉とき子

15:15-15:30
B1-26 火山性熱水のフッ化物イオン濃度の簡易定量 ※木川田喜一・向後里菜

15:30-15:45
B1-27 トカラ列島の活動的海底火山 海底熱水噴出系探索のための新たな道具 ※横瀬久芳・石橋純一郎
佐野有司・新青丸 KS1410Leg2 次航海乗船研究者

15:45-16:00
B1-28 トカラ列島の活動的海底火山: 熱水プルームの地球化学的特徴 ※石橋純一郎・山口宏典
堤 彩紀・横瀬久芳・野口拓郎・八田万有美
岡村 慶・角皆 潤・温 心怡・高畑直人
佐野有司・新青丸 KS_14_10Leg2 次航海乗船研究者

16:00-16:15 休憩

16:15-16:30
B1-29 1888 年磐梯山水蒸気爆発 (7) “磐梯式噴火”の新しい解釈 ※浜口 博之・中道 治久・植木貞人

16:30-16:45
B1-30 1m 深地温と IBC 法による放熱量の推定 ※◎翁長良介・大島弘光・前川徳光

16:45-17:00
B1-31 雲仙火山体内部のマグマ - 熱水系 - 科学掘削試料の熱水変質から - ※濱崎聡志・黒川 将
中田節也・星住英夫

17:00-17:15
B1-32 熱・電磁気学的調査に基づく薩摩硫黄島火山のマグマ - 熱水系 ※松島喜雄・高倉伸一・神田 径
斎藤英二・大石雅之

17:15-17:30
B1-33 草津白根山・湯釜火口湖地下浅部への流体供給 - 2014 年 3 月以降の群発地震に伴う地殻変動と湖底熱活動の変化 - ※寺田暁彦・神田 径
大倉敬宏・小川康雄

17:30-17:45
B1-34 九重火山群周辺の表層電気伝導度分布 ※鍵山恒臣
吉川 慎・宇津木充

17:45-18:00
B1-35 岩脈貫入による熱変成作用の酸分解法 ICP-MS 分析への影響 ※原口 悟・高谷雄太郎
李 毅兵・石井輝秋

11 月 3 日 (月) 午前

A 会場

60 周年記念シンポジウム

座長：市原美恵

9:00-9:15

会長挨拶

9:15-9:35

S-01 日本における火山学基礎研究の課題

※中村美千彦

9:35-9:55

S-02 海洋掘削が拓く地球最後のフロンティア

※海野 進

9:55-10:10

議論 (奥村聡)

10:10-10:30

S-03 火山学と学校教育の望ましい関係

※横山 光

10:30-10:50

S-04 アウトリーチの担い手とジオパークの可能性

※福島大輔

10:50-11:05

議論 (竹内晋吾)

11:05-11:25

S-05 火山学フィールドコース：火山学の人材育成を目指した大学院教育プログラム

※中川光弘

11:25-11:40

議論 (長谷川健)

11:40-11:50

総合討論

11 月 3 日 (月) 午後

A 会場

火山地質

座長：前野 深・伊藤順一

14:00-14:15

A2-21 西之島 2013-2014 年噴火における溶岩流出過程とハザード評価

※前野 深・中田節也・金子隆之

14:15-14:30

A2-22 西之島火山 2013-14 年噴火における活動の変化と特徴

※伊藤弘志・小野智三・野上健治

14:30-14:45

A2-23 海上からの西之島噴火観測

※白尾元理・清川昌一

14:45-15:00

A2-24 1856 年北海道駒ヶ岳噴火に関する再検討

※津久井雅志

B 会場

浅部マグマ上昇過程

座長：下司信夫・小園誠史

14:00-14:15

B2-21 苦鉄質火山の火道断面構造から推測される噴火プロセス

※下司信夫

14:15-14:30

B2-22 1783 年浅間山天明噴火で噴出した「火山硫黄毛」

※◎塚原えりか・津久井雅志・古川 登・小林哲夫

14:30-14:45

B2-23 ハイアロクラスタイトの形成条件 ―水底溶岩流の破砕を支配する要因について

※◎梅澤優美

海野 進・金山恭子・草野有紀・北村啓太郎

14:45-15:00

B2-24 噴火の終わり方

※佐藤博明・嶋野岳人・石橋秀巳

15:00-15:15		15:00-15:15	
A2-25	浅間仏岩火山流紋岩質仏岩下部溶岩にみられる変形構造とその成因 ※矢島 徹・高橋正樹 安井真也・金丸龍夫	B2-25	急減圧されるマグマにおける気泡の二次核形成について ※寅丸敦志
15:15-15:30		15:15-15:30	
A2-26	フランス海外県レユニオン島の溶岩流(1998年～2007年)と溶岩チューブ洞窟から得られる知見 ※本多 力・マルテル フランソワ ベッロ ヴァンサン・ルーカスル克蘭 オリヴィエ	B2-26	表面張力によるメルトフォームの組織緩和実験: 試料サイズ依存性 ※◎大槻静香・中村美千彦 奥村 聡・佐々木理
15:30-15:45		15:30-15:45	
A2-27	岩手火山における山頂火口丘(薬師岳スコリア丘)成長期の噴火活動 ※伊藤順一	B2-27	新燃岳 2011 年噴火におけるマグマ溜まり収縮と噴煙高度の関係 ※小園誠史・上田英樹 新堀敏基・福井敬一
15:45-16:00		15:45-16:00	
A2-28	白山火山東麓に分布する 2200 年前の火砕堆積物の特徴と生成機構 ※酒寄淳史	B2-28	黒曜石溶岩中のマイクロライトの形態から推定されるマグマ上昇過程 ※佐野恭平 寅丸敦志・和田恵治

臨時総会 (A 会場) 16:15-17:00

A 会場 日本火山学会 記念講演 座長: 篠原宏志 日本火山学会 研究奨励賞・記念講演		
17:05-17:35		
J-01	火山噴出物の組織解析に基づく火山噴火機構の解明 ※三輪学央	
	日本火山学会 学会賞・記念講演	
17:40-18:10		
J-02	火山研究者と社会との関わり ※藤井敏嗣	

11 月 4 日 (火) 午前

A 会場		B 会場	
地殻変動と火山の地震 座長: 藤田英輔・中道治久・前田裕太		マグマ・岩石学 座長: 大場 司・東宮昭彦	
9:00-9:15		9:00-9:15	
A3-01	三宅島 2000 年噴火のカルデラ形成期に観測された 50 秒パルスの力源の再検討ーキネマティック GPS 解析から分かったことー ※宗包浩志・及川 純・小林知勝	B3-01	マグマ混合過程に伴う斑晶組織: 東北本州と西ジャワの例 ※大場 司・小松 翔・林信太郎 高山晃平・イワン セチアワン・伴 雅雄
9:15-9:30		9:15-9:30	
A3-02	地下水同位体比測定と比抵抗構造から推測する 2011 年富士山 Mw5.9 地震の発生メカニズム ※相澤広彰・角野浩史・上嶋 誠・山谷祐介 長谷英彰・大野正夫・高橋正明・風早康平 TawaT Rung-Arunwan・小川康雄	B3-02	吾妻火山東部, 吾妻小富士の山体構成物と吾妻浄土平ボーリングコアの対比 ※◎尾崎 守・藤縄明彦
9:30-9:45		9:30-9:45	
A3-03	雌阿寒岳および十勝岳における広域繰り返し GPS 観測によって確認された火山性地殻変動 ※◎和田さやか・森 済・奥山 哲	B3-03	オフリッジ巨大海底溶岩流の組成変化と固化過程: オマーンオフィオライト V3 溶岩原の岩石学・地球化学 ※大塚 遼・草野有紀・金山恭子・海野 進
		9:45-10:00	
		B3-04	Role of Water in Magma Genesis of a Hybrid Plume with Recycled Eclogite Component ※◎高 珊・高橋栄一

9:45-10:00		10:00-10:15	
A3-04	伊豆大島測距観測網による地殻変動モニタリング ※高木朗充・山本哲也・安藤 忍	B3-05	一ノ目潟マール下の地温勾配：マントル捕獲岩からの制約 ※◎藤原恵美・中村美千彦・吉田武義 星出隆志・高橋栄一
10:00-10:15		10:15-10:30	
A3-05	個別要素法によるマグマ貫入シミュレーション（4） ※藤田英輔	B3-06	一ノ目潟マールに産する角閃石斑レイ岩の起源 ※◎柳田泰宏・中村美千彦・吉田武義
10:15-10:30		10:30-10:45	
A3-06	2011 年霧島新燃岳のマグマ湧出期の傾斜変動を再現する数理モデル ※◎鎌田林太郎・武尾 実	B3-07	大雪火山, 御蔵沢溶岩における苦鉄質包有物の特徴と成因 ※◎馬場 輝・和田恵治
10:30-10:45			
A3-07	2011 年霧島新燃岳の初期ブルカノ式噴火における脱ガス供給率に関する 1 考察 ※武尾 実・鎌田林太郎	10:45-11:00 休憩	
10:45-11:00 休憩		11:00-11:15	
		B3-08	三宅島火山のマグマ供給系の進化 ※潮田雅司 高橋栄一
11:00-11:15		11:15-11:30	
A3-08	地震活動度から推定した伊豆大島火山の間隙流体圧の時間変化 ※森田裕一	B3-09	三宅島火山マグマ供給系進化 -2: その一般的意義 ※高橋栄一・潮田雅司
11:15-11:30		11:30-11:45	
A3-09	2014 年ケルート火山噴火に先行した地震のエネルギー放出量 ※中道治久・井口正人 Triasuty Hetty・Hendrasro Muhamad Mulyana Iyan	B3-10	箱根中央火口丘最新期安山岩質溶岩に含まれる集合斑晶の成因 ※山田彩織・高橋正樹・安井真也
11:30-11:45		11:45-12:00	
A3-10	アクロスを用いた桜島火山噴火前後の伝達関数変化の抽出 ※前田裕太・山岡耕春・宮町宏樹 渡辺俊樹・國友孝洋・生田領野	B3-11	超巨大噴火のマグマ溜りに関する最近の研究動向 ※高橋正樹
11:45-12:00		12:00-12:15	
A3-11	2014 年 Kelud 火山噴火時の広帯域地震計記録解析 ※竹尾明子・吉澤和範・日置幸介	B3-12	中部日本背弧火山の不均質石基と斑晶メルト包有物：F, Cl, P ₂ O ₅ に富む高 K ₂ O マグマ注入 ※山口佳昭 原田英男・太田 靖
12:00-12:15		12:15-12:30	
A3-12	樽前山の群発地震活動と石狩地方南部の地震 (M _{JMA} 5.6) ※青山 裕・森 濟・橋本武志 大島弘光・村上 亮	B3-13	有珠上長和テフラ (Us-Ka) の岩石学的特徴 ～洞爺カルデラ - 中島 - 有珠山のマグマ供給系の解明に向けて～ ※東宮昭彦・後藤芳彦
12:15-12:30			
A3-13	蔵王山における浅部長周期地震活動とその発生機構 ※山本 希・三浦 哲・市来雅啓・平原 聡		

ポスターセッション

ポスター掲示期間：前半セッション 11 月 2 日 10:00 ～ 19:15

後半セッション 11 月 3 日 08:30 ～ 17:00

福岡大学 18 号館（理学部）（ジオパークセッションのポスターは A 会場入り口）
コアタイム：11 月 2 日（日）18:30 ～ 19:15（P1-01 ～ P1-34, 緊急学術セッションポスター）
11 月 3 日（月）13:00 ～ 13:45（P2-01 ～ P2-42）

GP-01 洞爺湖有珠山ジオパークにおける外来者向けの火山防災啓発活動 ※宇井忠英・岡田 弘・三松三朗 横山 光・池田武史・川南恵美子・佐藤 恣 高橋祐子・下道英明・ニュートン ダグラス		GP-02 ジオパーク：世界の動向と日本の現状 ※中田節也	
		GP-03 観光地での火山の普及活動 ～箱根ジオパークの新しい拠点施設のとりくみ紹介～ ※山口珠美	

P1-01	新燃岳 2011 年噴火による噴煙柱の粒子離脱量垂直変化 (中間報告) ※萬年一剛・長谷中利昭 宮縁育夫・清杉孝司	P1-22	神奈川県内を対象とした降灰シナリオの検討 一富士山・宝永噴火規模の例一 ※佐々木寿 廣谷志穂・千葉達朗
P1-02	Lesser Antilles 諸島沖に堆積した遠方火山砕屑堆積物の堆積過程 ※片岡香子・斎藤武士	P1-23	大阪層群ピンク火山灰の堆積ユニット ※佐藤隆春・森山義博・坂本隆彦 小西哲夫・竹内靖夫・別所孝範・山本睦徳
P1-03	高層の火山灰の落下速度 ー鈴木抵抗係数へのカニンガム補正の適用ー ※新堀敏基・橋本明弘 石井憲介・佐藤英一・福井敬一	P1-24	フィリピンにおける広域テフラネットワーク構築の現状 ※奥野 充・小林哲夫 フィリピン広域テフラネットワークメンバー
P1-04	衛星搭載光学センサーを用いた西之島火山の噴煙活動監視 ※福井敬一	P1-25	水槽を用いた火砕流発生実験と教材としての活用 ※佐藤鋭一・中岡礼奈・佐野恭平・和田恵治
P1-05	パーティクルライダーを用いた浮遊火山灰濃度の測定 ※茂木達也・阿保 真	P1-26	ステレオマッチングによる火山噴出物の簡易計測手法の検証 ※金井啓通・永田直己・藤原伸也 阪上雅之
P1-06	模擬火山噴火実験における周期的噴出モードと噴出推移 ※◎菅野 洋・市原美恵	P1-27	山梨県富士山科学研究所における富士山火山防災への取り組み ※吉本充宏・常松佳恵・内山 高 藤井敏嗣・荒牧重雄
P1-07	十勝岳の熱活動評価 1-Plume rise 法による噴気放熱率推定 ※◎田中 良・橋本武志・寺田暁彦	P1-28	ACTIVE による阿蘇中岳火口における繰り返し比抵抗観測 (2011 年～2014 年の観測結果について) ※宇津木充・鍵山恒臣・井上寛之
P1-08	蔵王山・丸山沢噴気地熱地帯の噴気温測定と温泉水化学分析 ※後藤章夫・渡邊隆広 松中哲也・土屋範芳	P1-29	無人ヘリコプターを用いた三宅島雄山における空中磁気測量 ※小山崇夫・金子隆之・大湊隆雄 田中伸一・渡邊篤志・武尾 実 柳澤孝寿・本多喜明
P1-09	台湾北部・大屯火山群における熱水流体挙動の定量的評価に関する研究 ※小森省吾・趙 丰 鍵山恒臣	P1-30	有珠山 2000 年新山ボーリングコアの岩石磁気学的検討 ※◎三嶋 渉・橋本武志・味喜大介・大島弘光
P1-10	桜島における火山ガス組成観測：方法と予察的結果 ※篠原宏志	P1-31	草津白根火山万代鉦周辺における 3 次元比抵抗構造 ※神田 径・高倉伸一・小山崇夫 小川康雄・関 香織・日野裕太・長谷英彰
P1-11	群発地震活動に伴う箱根山大涌谷の噴気ガス組成の時間変化 ※代田 寧・大場 武	P1-32	口永良部島における観測孔付近での浅部比抵抗構造 ※棚田俊收・長井雅史・川端博文・上田英樹 石川浩秀・原田 誠・岡田 力・石川次男
P1-12	二酸化硫黄放出率トラバース測定用の簡易型装置の開発 ※森 俊哉	P1-33	比抵抗構造から推定される立山地獄谷の熱水系 ※◎関 香織・神田 径・小川康雄・丹保俊哉 小林知勝・日野裕太・長谷英彰・鈴木惇史
P1-13	2014 年 Kelud 火山の噴火が励起した電離圏擾乱 GNSS-TEC 法による観測 ※◎中島悠貴・日置幸介・竹尾明子・チャヒャディ ムハマド アディティア アリフ	P1-34	地震波干渉法による霧島山の表面波速度構造推定の試み ※長岡 優・西田 究・青木陽介 武尾 実・大倉敬宏・吉川 慎
P1-14	火山活動を時空間的に俯瞰する試み ※横山博文 藤原善明・井上和久・菅野智之	P2-01	2013-2014 年西之島火山の活動 ※小野智三 伊藤弘志・野上健治
P1-15	阿蘇カルデラ, Aso-1 噴火直近に噴出した古閑溶岩 ※田島靖久・星住英夫・松本哲一・廣田明成	P2-02	久米島沖の海底で発見された凹地形について ※南 宏樹・瀬田英憲・瀬尾徳常 井城秀一・及川光弘・岩渕 洋
P1-16	九重火山地質図 ー噴火史の再構築ー ※川辺禎久・星住英夫・伊藤順一・山崎誠子	P2-03	神津島砂礫山, 黒曜石溶岩の内部構造 ※後藤芳彦・佐野恭平・佐藤鋭一・和田恵治
P1-17	K-Ar 年代測定による蔵王火山の活動史の再検討 ※山崎誠子・伴 雅雄・及川輝樹	P2-04	ブルカノ式噴火における降灰試料の短時間間隔連続採取 ※嶋野岳人・井口正人・横尾亮彦
P1-18	静岡県裾野市十里木の坑井試料に基づく富士・愛鷹両火山と基盤の地質 ※◎高須賀俊文 藤本光一郎・萬年一剛	P2-05	噴気孔の穴のサイズの決まり方を知りたい ※並木敦子・篠原宏志・風早竜之介
P1-19	20 万分の 1「大分」図幅地域の火山岩類の時空分布 ※星住英夫・松本哲一	P2-06	富士山長尾山スコリアに含まれる石基ガラスの酸化還元状態 ※石橋秀巳・鍵 裕之・佐藤博明
P1-20	十和田湖の湖底地形判読 - 高解像度湖底地形データを基に - ※及川輝樹・工藤 崇・石塚 治 杉本祐介・松本義徳・勝田俊輔・吉岡勇哉		
P1-21	噴出物の層序と全岩組成からみた草津白根火山本白根火砕丘群の完新世の噴火履歴 ※◎濁川 暁 石崎泰男・吉本充宏・寺田暁彦 上木賢太・中村賢太郎		

- P2-07 西之島火山 2014 年噴火マグマの岩石学的特徴とマグマ脱ガス量 ※斎藤元治・中野 俊・下司信夫
篠原宏志・東宮昭彦・宮城磯治
- P2-08 西之島火山 2014 年噴出物の岩石学的パラメータ ※宮城磯治・斎藤元治・下司信夫
中野 俊・東宮昭彦・篠原宏志
- P2-09 桜島火山歴史時代噴火の溶岩中斜長石斑晶の CSD 解析 ※◎山下俊介・寅丸敦志
- P2-10 爆発的・非爆発的噴火の遷移メカニズム：桜島大正噴火の軽石・本質岩片の比較から ※◎清水ひかる・奥村 聡・中村美千彦
- P2-11 アナログ実験による曲がった柱状節理の形態の再現 ※◎濱田 藍・寅丸敦志
- P2-12 スプリエールヒルズ火山 2006 年溶岩ドーム崩壊イベントに伴った火砕流の堆積過程：粉体流モデルからの洞察 ※前野 深・Sparks R. Stephen J.
Hogg Andrew J.・Talling Peter
- P2-13 栃木県北部、那須火山群を給源とする余笹川岩屑なだれの地質学的特徴と運搬・堆積機構 ※◎菊地瑛彦・長谷川健
- P2-14 富士山麓・雁の穴溶岩洞窟とその周りの樹型群から得られる知見 ※本多 力・立原 弘・勝間田隆吉
- P2-15 神津島、西暦 838 年天上山形成を伴う噴火活動の火山地質学的考察 ※◎内藤 武・鈴木桂子
- P2-16 九重火山飯田火砕流の流動機構の解明 ※◎佐藤香織・鈴木桂子
- P2-17 蔵王山御釜火口近傍における傾斜観測 ※西村太志
- P2-18 三宅島大野原島での地震・GPS リアルタイム連続観測 ※渡邊篤志・松島 健・大湊隆雄
及川 純・小澤 拓
- P2-19 伊豆大島の多成分ひずみ計で観測される地震波波形の特徴 ※山本哲也・長岡 優・木村一洋
- P2-20 栗駒山の火山活動に誘発された 2008 年岩手・宮城内陸地震 ※土井宣夫
一関市消防本部 岩手県総合防災室
- P2-21 北部フォッサマグナ周辺における新生代沈み込み帯マグマ活動 ※岡村 聡・稲葉 充
足立佳子・新城竜一
- P2-22 プレート沈み込み開始期の火成活動とテトニクスの解明：IODP Exp.352 航海速報 ※棚山徹也
道林克禎・清水健二・Python Marie
IODP Exp.352 乗船研究者一同
- P2-23 Pre-caldera growth of Tengger-Bromo volcano system, East Java: similarity with other caldera volcanoes of Sunda arc ※土志田潔・竹内晋吾・高田 亮
Andreastuti Supriyati・Kartadinata Nugraha
Heriwaseso Anjar・Mulyana Rosgandika
Asep Nursalim・Oktory Prambada
- P2-24 マグマデータベースに基づく火山活動評価の試み：噴火規模と噴火様式 ※竹内晋吾・三浦大助
土志田潔
- P2-25 新燃岳 2011 年噴火のマグマの脱水・結晶化過程 ※◎吉瀬 毅・寅丸敦志
- P2-26 始良カルデラ噴火のマグマ溜まり深度 ※安田 敦・藤井敏嗣
- P2-27 始良カルデラ形成期における珪長質マグマの化学的特徴 ※◎日向宏伸・巽 好幸・鈴木桂子
谷健一郎・木村純一・常 青
- P2-28 蔵王火山、刈田岳火山体の岩石学的研究 ※高野 徹・伴 雅雄・及川輝樹・山崎誠子
- P2-29 新潟焼山火山第 3 期活動噴出物についての岩石学的研究 ※◎小林智子・石崎泰男
- P2-30 斑晶微細構造から推定する草津白根火山殺生溶岩のマグマだまりの物理化学構造 ※◎押尾和喜
上木賢太・川野心大・乾 睦子・野上健治
- P2-31 阿蘇-4 小谷、肥猪火砕流堆積物および高遊原溶岩に含まれる斜長石の組成 ※◎山崎秀人
黒川 聖・長谷中利昭
- P2-32 秋田駒ヶ岳火山西部地域における成層火山体形成期噴出物の岩石学的研究 ※杉田匠平・藤縄明彦
- P2-33 2014 年 7 月 8 日に樽前山で発生した M5.3 の地震前後の地震活動 ※千葉慶太・上田英樹・棚田俊収
- P2-34 草津白根山における 2014 年微小地震の群発 松田慎一郎・徳永啓子・和智昌子
※寺田暁彦・神田 径・小川康雄・桑原知義
- P2-35 口永良部島の 2014 年の噴火活動について ※上田英樹・長井雅史・三輪学央・川端博文
棚田俊収・前坂 剛・岩波 越
- P2-36 口永良部島の火山活動 ※松末伸一・平松秀行
通山尚史・林 幹太
- P2-37 精密水準測量による口永良部島火山の地盤上下変動 ※山本圭吾・園田忠臣
- P2-38 霧島山・韓国岳周辺の地震活動と地殻変動 ※平松秀行・林 幹太・通山尚史
- P2-39 2011 年霧島新燃岳の噴火に伴って発生した火山性微動の時空間変化 ※中元真美・松本 聡・山中佳子
清水 洋・中道治久・市原美恵・及川 純
- P2-40 InSAR 時系列解析を用いた Nyamugira 火山地域における地殻変動 ※安藤 忍
- P2-41 1m メッシュ DEM データから求めた桜島昭和火口の 3 次元形状 ※小枝智幸・高橋冬樹・横山博文
野田信幸
- P2-42 伊豆大島の地殻変動にみられる短周期変動について ※高山博之・山本哲也・鬼澤真也